

節水トイレの累計出荷台数が3,000万台を突破

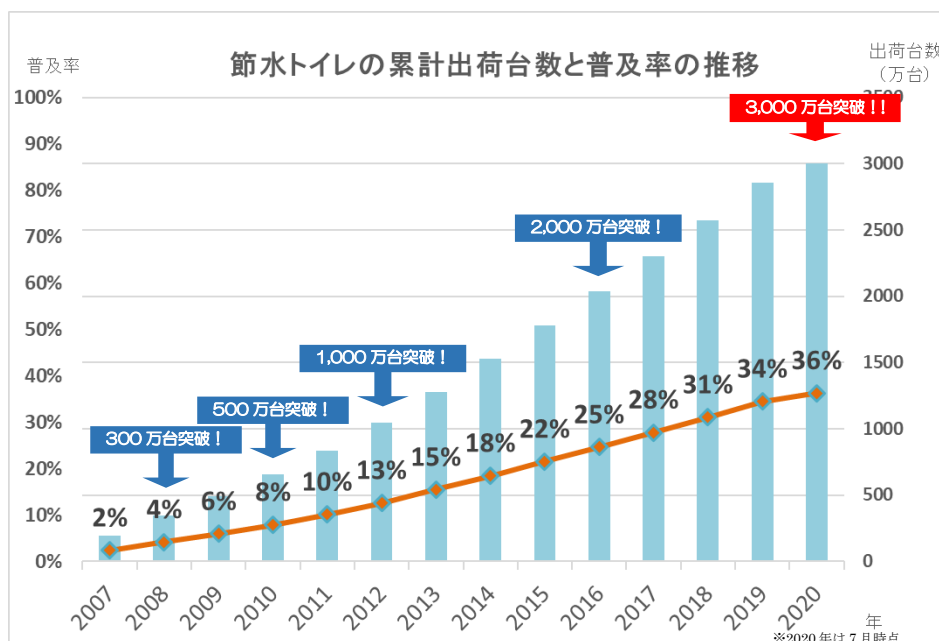
～普及率は約36%。さらなる普及により、低炭素社会実現に貢献します～

一般社団法人 日本レストルーム工業会(本部:愛知県名古屋市、会長:清田 徳明(TOTO株式会社 代表取締役社長執行役員))では、このたび洗浄水量が6L以下のトイレ(以下「節水トイレ」という)に関する出荷統計調査を実施しました。その結果、**2020年7月に節水トイレの出荷台数が累計で3,000万台を突破**したことがわかりました。

国内においては、1990年代末に発売が開始され、2000年代初頭に全社ラインアップされた後、2012年に累計出荷台数が1,000万台を超え、その後4年で2,000万台、さらに3年で3,000万台を突破しました。しかしながら、工業会の試算によるその普及率は36%に留まります。

これまで、2010年には住宅エコポイント制度の対象製品、「都市の低炭素化の促進に関する法律」(2012年12月4日施行)の「低炭素建築物」対象製品、2016年には住宅ストック循環支援事業の対象製品、2019年には次世代住宅ポイント制度の対象商品になるなど、国の政策でも普及促進への後押しが行われてきましたが、まだまだ普及へ取り組みが必要です。

当工業会では、ビジョンである「地球温暖化をはじめとする環境問題解決のため、地球にやさしいモノづくり」を目指し、引き続き、低炭素社会実現に貢献するため、節水トイレのさらなる普及・啓発に取り組んでいきます。



※「一般社団法人 日本レストルーム工業会」加入会社(2020年10月現在)

アイシン精機株式会社、アサヒ衛陶株式会社、SANEI株式会社、ジャニス工業株式会社、東芝ライフスタイル株式会社、TOTO株式会社、パナソニック株式会社、株式会社 LIXIL

<本件に関する問い合わせ先>

一般社団法人 日本レストルーム工業会 担当:福浦・立石 TEL:03-5206-5493

(東京都新宿区市谷町2-29 こくほ21 5階)

工業会ホームページ:<https://www.sanitary-net.com/>

<参考>

1. 各社の代表的な節水トイレ

アサヒ衛陶	ジャニス工業	TOTO	パナソニック	LIXIL
				
Eddy(エディ)	スマートクリンⅢ	ネオレスト	アラウーノ	サティス

2. 節水量・CO₂削減量の試算(日本レストルーム工業会推定) ※2020年10月見直し

日本のトイレすべてが節水トイレに置き換わった場合、1年で約5億2千万m³(※1)もの節水(東京ドーム422杯分)が実現でき、CO₂も年間で28.2万トン(※2)削減できると推定されます。

(1)水洗トイレの市場ストック個数

約8,277万台

(2)水洗トイレ使用人数

約12,038万人

(3)1日1人あたりのトイレで使う水量

現在の市場ストックのトイレで試算した場合:約42.9L/日・人

全て6L以下のトイレに置き換わった場合:約31.0L/日・人

(4)年間削減水量(※1)

12,038万人×(42.9L-31.0L)/日・人×365日=522,870,530m³/年

(5)年間CO₂削減量(※2)

522,870,530m³/年×0.54(※3)=282,350t-CO₂/年

※常緑樹(約14kg(CO₂)/本)に換算すると約2,017万本/年相当

(※3)水のCO₂排出係数について

日本レストルーム工業会では、上下水道に接続される水まわり製品を使用することによって発生する水使用に由来するCO₂排出量の算出に使用するための、水のCO₂換算係数を算出しています。

詳しくはHPをご参照下さい。<https://www.sanitary-net.com/trend/standard/standard-co2.html>

以上

<参考資料>

住宅・土地統計調査(平成30年)

建物別ストック統計研究会報告書(2002年11月)

環境省 循環再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課「日本の廃棄物処理 H29年度版」

省エネ・防犯住宅推進委員会「省エネ・防犯アプローチブック」(平成18年10月)

総務省統計局 統計データ「第2章 人口・世帯」(2015年度版)

総務省統計局 「平成28年6月1日現在 人口推計」より